Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2023/06/30

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	35.63	0.04
JPY/THB	0.2461	-0.0002
USD/JPY	144.76	0.28
EUR/THB	38.72	-0.12
EUR/USD	1.0865	-0.0048
USD/CNH	7.269	0.025
SGD/THB	26.27	-0.03
AUD/THB	23.58	0.08
USD/INR	82.06	0.00
USD Index	103.34	0.44

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,917.9	5.6
WTI (Oil)	69.86	0.3
Copper	8,177.5	-77.5

Stock

	Close	CHANGE
SET (TH)	1,479.57	12.64
NIKKEI (JP)	33,234.14	40.15
DOW (US)	34,122.42	269.76
S&P500 (US)	4,396.44	19.58
SHCOMP (CN	3,182.38	-7.00
DAX(GER)	15,946.72	-2.28

Bond

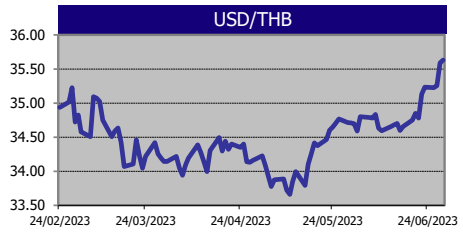
	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.324	0.001
10Y (THB)	2.588	0.008
5Y (USD)	4.131	0.164
10Y (USD)	3.838	0.131

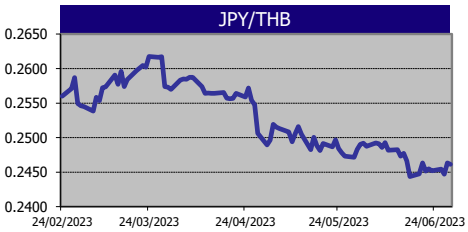
Fund Flow (Overseas Investors)

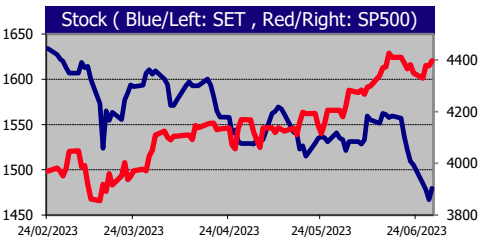
	Close	CHANGE
Stock net flow	1,148	642.8
Bond net flow	4,882	6101.7

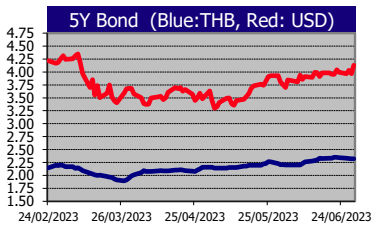
*compared with previous day

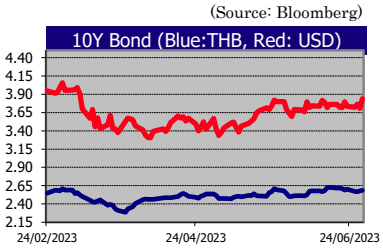
(Source: Bloomberg)

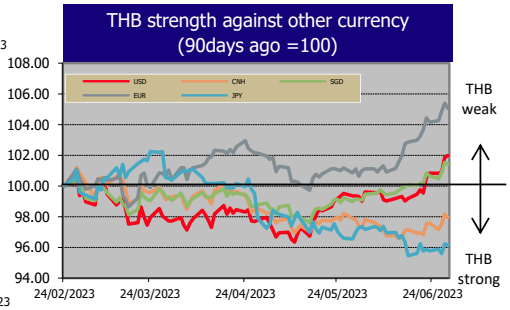


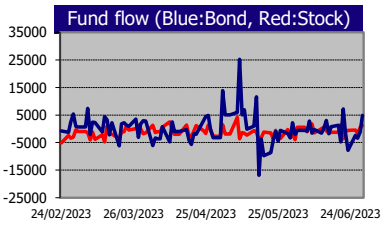


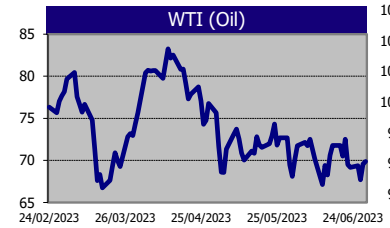












Yesterday's market summary

●ドルバーツ

・昨日のドルバーツは高値圏を維持しながら推移。35バーツ台半ば付近でスタートしたドルバーツは、前日のECBフォーラムにおけるパウエルFRB議長のタカ派的な発言や国内政治の先行き不透明感等を背景に底堅い動きを続け、バンコク時間午後には年初来高値を更新する場面を見せた。その後上昇は一服したものの、海外時間に入り発表された米国経済指標において米労働市場が未だ堅調であることが確認され、米景気減速懸念が後退。ドルバーツは上昇に転じ、年初来高値を再度更新した。ただ上昇は一時的なものに留まり、早々に指標発表前の水準まで戻すとそのまま35.63レベルで引けた。

●ドル円その他

・昨日のドル円は上昇。144円半ば付近で取引を開始。日米欧の金融政策の乖離が意識されながらも、介入警戒感も燻る水準であることからドル円は144円前半から半ばにかけて上下。海外時間、米第1四半期コアPCE(確報値)が予想を下回るも、同時に発表された新規失業保険申請件数、失業保険継続受給者数が市場予想対比良好な結果となり、米景気減速懸念が後退。ドル円は144円台後半まで上昇した。その後144円半ば付近まで戻すも、Fedメンバーのタカ派な発言が伝わる中、終盤にかけて底堅く推移。結局144.76レベルでクローズを迎えた。

Bangkok Dealer's Eye

ドル円は年初来安値を更新し、7ヵ月ぶりに高値を更新した。鈴木財務相による牽制発言にもかかわらず、昨年9月に24年ぶりに円買介入が実施された145円台に近づいている。市場ではFOMCによる年内2回の追加利上げ（現在50%強を織り込み）が徐々に織り込まれつつあり、米金利上昇と共にドル円は連れ高となっている。今週、ECB主催の金融シンポジウム（ECBフォーラム）がポルトガルのシントラで開催され注目が集まったが、改めて日銀と主要中銀との金融政策の方向性の違いが浮き彫りとなった。パネル討論会で、パウエルFRB議長はFOMCが7月と9月の会合で政策金利を引き上げる可能性があると示唆した。景気低迷の可能性はあるものの、リセッションが最も可能性の高いケースだとは考えていないとも述べた。また、コアインフレについては、2025年まで当局目標の2%に戻ることはないとの見通しを示した。ラガルドECB総裁は、引き続き、基本シナリオが前提で、7月に利上げを実施する考えを示した。また、利上げ休止も考えていないことも明らかにした。ベイリーBOE総裁は政策金利をピーク水準で維持する期間について、トレーダーが現在予測しているより長期に及ぶ可能性があることを示唆した。一方、植田日銀総裁は、来年インフレが上向くと確信が持てれば、金融政策の正常化に着手することはあり得るとの考えを示唆した。ただし、日銀の想定では年末にかけてインフレの伸びは鈍化する見通しだとも述べた。引き続き、ドル円は、神経質な展開が継続することが想定され、円安の動きに対する当局の牽制発言に注視が必要となろう。（前川）

The report is prepared for the sole purpose of information only.It is not an invitaion to trade.The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.